

アベ9条改憲発議を許すな!

9条かながわ大集会2017in横浜に600人参加

11月11日の午後、九条かながわの会主催の「9条かながわ大集会2017in横浜 アベ9条改憲を許すな!」が、関内ホール大ホールで開催され、600人が集まりました。



写真2 講演する池田香代子さん

デュオミニコンサート

緞帳があがると同時に、赤池美礼さんのヴァイオリンと佐藤佑美さんのピアノによる演奏が始まりました(写真1)。エルガーの「愛の挨拶」でした。

赤池さんは「表現の自由や文化を壊す戦争はあつてはならない。平和が大切です」と語りました。続いて、マスネの「タイスの瞑想曲」、モンティの「チャールダッシュ」、

ルイ・アームストロングの「素晴らしい世界」が演奏され、やわらかな音色を響かせました。二人の演奏に参加者から大きな拍手が贈られました。

全体主義に抗する方法は、人を信じ、人とつながること

池田香代子 さんのお話

ドイツ文学翻訳家の池田さんは「『夜と霧』の深奥から―今、守るべきもの―と題して、映像を使いながら、次のように話しました(写真2)。

「ナチス時代には Ауシュビッツなど強制収容所が約2万カ所設置され、累計800万から1000万人が収容され、犠牲者は600万人に達しました。うちアウシュビッツでは100万人の犠牲者が出ました。収容されたのは、ユダヤ人だけでなく、共産主義者、社会主義者、反ナチ活動家、ソ連軍捕虜、累犯者から交規則違反者、遅刻・欠席常習者まで捕えられました。

「夜と霧」の作者でアウシュビッツ収容所から生還したヴィクトール・フランクルは『与えられた環境でいかにふるまうかという、人間としての最後の自由だ』と語っています。ユダヤ人の哲学者、ハンナ・アーレントは、『全体主義のもとでは、私が私であることが破壊される。彼は、全体主義に抗するには、自発性を忘れない、人を信じる、人とつながることだ』と語っています。

『夜と霧』の作者でアウシュビッツ収容所から生還したヴィクトール・フランクルは『与えられた環境でいかにふるまうかという、人間としての最後の自由だ』と語っています。

いかさまな選挙制度、違憲立法、アベ政治を許さないために、フランクル、アーレントのように闘いましょう。闘いの到達点を見ましよう」。



写真1 演奏する佐藤佑美さん(ピアノ)と赤池美礼さん(ヴァイオリン)

九条かながわ

No.14

発行：九条かながわの会

2017年11月28日

横浜市神奈川区二ッ谷町2-9 ニッ谷コア202

電話 090-7175-1911 Fax 045-894-1052

http://9kanagawa.la.coccan.jp/

e-mail article9@nifty.com

伊藤千尋さんのお話

伊藤さんは「正念場の9条―15%の市民が社会を変える」と題して、スライドを示しながら、以下のように話しました(写真3)。

「ニューヨークで日本の選挙結果を聞いたが、自民党は前回と同じで、公明党は5議席減らし、伸びたのは野党共闘だけで、

世界に広がる

日本の憲法9条

立憲、共産、社民の合計は38議席から69議席に躍進した選挙でした。マスコミの与党圧勝の報道は間違いです。

自衛隊が憲法に明記されたら、軍服がのさばる社会となります。

空港に軍服が現れ、防衛予算は2倍、3倍になるでしょう。今や、闘いの場は選挙から市民行動になりました。

アフリカ沖のスペイン領カナリア諸島にも、トルコにも憲法9条の記念碑があります。日本でも、沖縄の読谷村、広島原爆詩人の栗原貞子さんの墓など14カ所に9条の碑があります。2015年にコスタリカ国会は

満場一致で日本国民とコスタリカ国民にノーベル平和賞をと決しました。世界が日本の平和憲法を求めています。私たちは核兵器禁止条約をリードした平和国家、コスタリカの「平和の輸出」から学ぶ必要があります。

韓国民は2015年夏の日本国民の国会前の戦争法反対の闘いに学んで大統領を退陣させました。短期間に多数を集められたのは歌とスマホを使用したからだです。

15%の国民が立ち上がれば社会を変えることができます。法則があります。社会を変える15%を生み出す最初の1%となりましょう。

5つの会の リレートーク

その後、5つの会から発言がありました。九条の会鶴見区交流センターの相楽育雄さんは、10年

各地・各分野で奮闘 来年9月、厚木で大集会

続いた5月3日の鶴見平和フェスティバルの活動を紹介しました。

さがみはら九条の会の鈴木忠夫さんは、市内で18の会が連絡会で繋がって活動していること、2014年には「戦争いやだ、9条まもれ！」相模原連絡会を結成し、3千

万署名に取り組んでいると報告しました。

横浜国立大学九条の会の山本泰生さんは、2015年安保法制反対の闘いの中で、11名の教員有

安保法制反対の行動のために小さな幟旗を作り、現役の職員にも参加を求めている活動を紹介しました。

志により会が結成された。教職員・学生・市民の参加で、小林節さんや木村草太さんの講演会を開催している活動を報告しました。

神奈川県職員九条の会の佐伯義郎さんは、12年間、年2回の学習会、戦争の史跡や基地の見学、トワークは、10の会がネットワークをつくってさまざまな活動をしていることが木下泰子さんほか8人から発言され、来年9月17日に9条かながわ大集会を厚木市文化会館で開催するので、是非とも来てくださいと呼びかけました。



写真3 講演する伊藤千尋さん

岡田尚事務局代表 の行動提起

最後に、岡田尚事務局代表が次のようなまとめと行動提起をしました(写真4)。

「今日の集会は『愛の挨拶』から始まり、5つの会の『闘いの挨拶』で終わった。今日は池田さんから時間に沿った縦軸の話を伺い、伊藤さんからは空間に沿って広がった横軸の話を聞いた。

九条の会は多く結成されたが、休眠中の会も多い。でも、いつかすべての会が立ち上がる時が来ると言ってきた。

安倍9条改憲を前にして、今こそこれを阻止するために立ち上がる時です。

3,000万署名を成功させるには、大きな声でなく、隣の人にもやさしく分かりやすく話をしましょう。



写真4 各地・各分野の九条の会の方々の前で、行動提起する事務局代表の岡田尚さん